



# JST 理事長 記者説明会

平成28年5月30日



科学技術振興機構

# JST20周年記念シンポジウム(福島)

## 若者がつくる復興の未来図 ～科学技術は復興にいかに関わるべきか～

日時:平成28年5月29日(日)13:00～17:00

場所:コラッセふくしま4階 多目的ホール

概要:被災地域の若者たちに焦点をあて、現在復興に取り組んでいる多方面の関係者を交えて、科学技術は復興にいかに関わるべきかを探る。

特別対談:益川敏英氏(名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長)

聞き手:小沢喜仁氏(福島大学副学長)

基調講演:山海嘉之氏(筑波大学 システム情報系教授・サイバニクス研究センター長／  
CYBERDYNE株式会社 社長・CEO)

高校生によるスピーチ:「私たちがえがく復興後の未来」

岩手県立盛岡第三高等学校(SSH)、福島県立安積黎明高等学校、  
福島県立福島高等学校(SSH)、福島県立ふたば未来学園高等学校、  
宮城県古川黎明高等学校(SSH)

モデレータ:岡田努氏(福島大学総合教育研究センター・教授)

# JST20周年記念シンポジウム(福島)

パネルディスカッション:「復興の近未来とこれから～若者の科学技術に託す夢と復興への願いに込めて～」

浅尾 芳宣氏(株式会社福島ガイナックス代表取締役)

齋藤 実氏(南相馬サイエンスラボ代表)

野ヶ山 康弘氏(京都教育大学附属京都小中学校・教諭)

箱崎 慶伍氏(明治大学大学院(建築学専攻)2年)

平舘 理恵子氏(一般社団法人KAI OTSUCHI 理事長)

モデレーター:小沢喜仁氏(福島大学副学長)

エンディング:高校生による演奏(福島県立安積高等学校)

参加者:300名

# 日中大学フェア & フォーラム in CHINA 2016 開催報告

## 趣 旨

世界最高レベルの大学を構築するため、教育と研究の両立、グローバル化、国際産学連携、人材流動、世界への貢献など、日中双方の大学が抱えている課題を話し合い、科学技術及び教育分野における日中の新たな協力関係を構築する。

## 概 要

- ・ **フォーラム (2016.5.6 北京)** 参加者人数：400人以上  
テーマ：「世界最高レベルの大学を目指して」
- ・ **フェア (2016.5.7-8 北京、5.10 済南(山東省))**  
日本の参加大学：37校、 来場者人数：14,000人以上
- ・ **日中交流会 (2016.5.6 北京)** 参加者人数： 約350人
- ・ **日本技術説明会 (2016.5.8 北京、5.10 済南)** 日本側技術発表機関：10機関、参加者人数：200人以上

## 成 果

- ・ 世界最高レベルの大学構築に向けて、日中トップ大学の学長クラスが深く議論。
- ・ 日本の大学ブースに3,500名以上の中国人学生が訪問、留学促進に多大な貢献。
- ・ 日本技術説明会に200人以上が来場、16社の中国企業が日本側技術発表機関と技術協力、共同開発の意欲を表明、日中間の国際産学連携を大いに促進。
- ・ 中国における「さくらサイエンスプラン」認知度の更なる向上。



日中大学フォーラム in CHINA 2016の会場(於:北京の中国科学院学院会堂)。日中主要学術機関の機関長・役員同士がネットワークを構築。



日中大学フェア in CHINA 2016の展示ブース。留学促進や産学連携へ大きく貢献。

# 日中大学フェア & フォーラム in CHINA 主要参加者

## 日中主要学術機関の機関長・役員同士がネットワークを構築

### 中国側主要参加者

丁 仲礼	中国科学院副院长、 中国科学院大学学長
劉 叢強	国家自然科学基金委員会副主任
吳 岳良	中国科学院大学副学長
万 立駿	中国科学技術大学学長
袁 駟	清華大学副学長
吳 朝暉	浙江大学学長
席 光	西安交通大学副学長
芦 中昌	大連理工大学副学長
周 玉	ハルビン工業大学学長
関 乃佳	南開大学副学長
寧 浜	北京交通大学学長
段 献忠	湖南大学学長
王 秉	蘭州大学学長
朱 崇実	厦門大学学長

### 日本側主要参加者

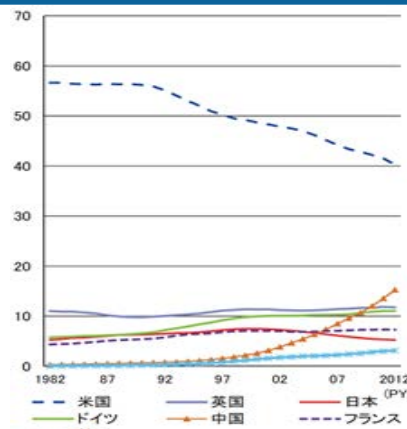
戸谷 一夫	文部科学審議官
伊藤 康一	在中華人民共和国 日本国大使館首席公使
濱口 道成	JST理事長
野依 良治	JST研究開発戦略センター長
沖村 憲樹	JST特別顧問/CRCC上席フェロー
羽田 正	東京大学理事・副学長
山極 壽一	京都大学総長
里見 進	東北大学学長
西尾 章治郎	大阪大学総長
松尾 清一	名古屋大学総長
久保 千春	九州大学総長
山口 佳三	北海道大学総長
室伏 きみ子	お茶の水女子大学学長
鵜飼 裕之	名古屋工業大学学長
橋本 周司	早稲田大学副総長
藤嶋 昭	東京理科大学学長

# 研究論文と科学技術予算の日中比較

研究論文:20年間で日本は**4位→8位** 中国は**18位→2位**

表1 主要国のTop10%補正論文シェア順位の推移

主要国	1991-93 平均	2001-03 平均	2011-13 平均
米国	1位	1位	1位
中国	18位	8位	2位
日本	4位	4位	8位



※Top10%(Top1%)補正論文数とは、被引用回数が各年各分野で上位10%(1%)に入る論文の抽出後、実数で論文数の1/10(1/100)となるように補正を加えた論文数を指し、時系列の変化も考慮している。

出典: 文部科学省科学技術政策研究所「科学技術指標2015」  
[http://data.nistep.go.jp/sti\\_indicator/2015/RM238\\_42.html](http://data.nistep.go.jp/sti_indicator/2015/RM238_42.html)

図1 主要国のTop10%補正論文シェアの変化

科学技術予算:予算額、対GDP比ともに中国が日本を大きく超えた

日本の科学技術予算は**3.4兆円**(2015年)、  
 中国の科学技術予算は米国を超え**16.6兆円**  
 (2012年)。

対GDP比も、中国は2000年代に入ってから  
 の伸びが著しく、日本の**0.75%**に対し、中国  
 は**1.06%**。

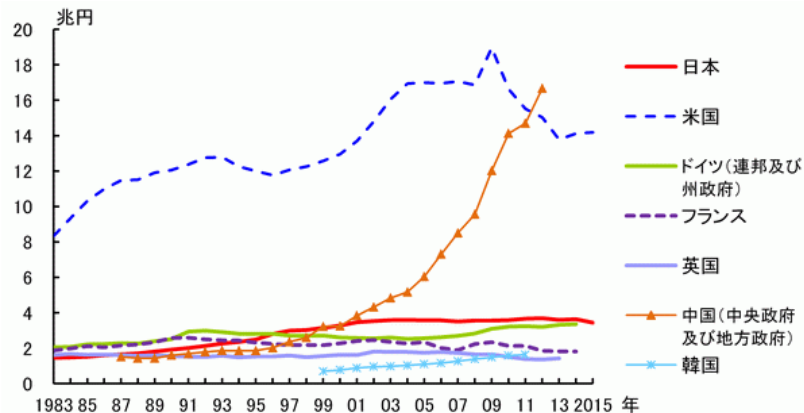


図2 主要国科学技術予算総額の推移(OECD購買力平価換算)

出典: 文部科学省科学技術政策研究所「科学技術指標2015」。  
[http://data.nistep.go.jp/sti\\_indicator/2015/RM238\\_12.html](http://data.nistep.go.jp/sti_indicator/2015/RM238_12.html)

# サイエンスアゴラについて

サイエンスアゴラは  
「あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場」の総称です。

サイエンスアゴラは、異なる分野・セクター・年代・国籍を超えた関係者をつなぎ、さまざまな人たちが各地で主体的に推進する活動の広場です。この広場に集まる人たちが多様な価値観を認め合いながら、対話・協働を通じて、これからの「社会とともにある科学」と「科学とともにある社会」の実現を目指します。

## 【2016年の新たな展開】

### 社会連携活動のネットワーク化

- 「JSTが主催する年に一度のイベント」から「各地の連携活動の場の総体（みんなの活動の場）」に。
- 地域の特徴あふれる活動や地域に根ざした活動を大切に。

### 主役は多様なステークホルダー（科学者は不可欠）

- 多様なステークホルダーとつくる、社会のためのサイエンスアゴラに。
- 「自発性」と「持続性」を重視。

### 対話やアウトリーチに終わらない、さまざまなチャレンジや工夫を期待

- 現実と真摯に向き合い、今私たちが取り組むべき課題を認識する。
- あらゆる人の力で、これからの社会をつくり進めるための対話の場をつくる。
- 対話で終わらせないために、次のアクション（政策形成、課題解決、知識創造）につなげられる人と協働する。



# 今年のサイエンスアゴラ(年次総会)の概要

**会 期**：2016年11月3日（木・祝）～6日（日）の4日間

※入場無料

※各日10：00～17：00

※最終日は16：00より閉幕セッションを開催予定

**会 場**：東京・台場地域（日本科学未来館ほか）

**主 催**：科学技術振興機構（JST）

共 催：日本学術会議、産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

協 力：フジテレビジョン

後 援：内閣府、外務省、文部科学省ほか

※このほかに協賛機関・関係省庁等の後援機関あり

## 【今年のポイント】

◆11月3日（木・祝）～6日（日）の4日間でお台場地域にて開催

◆約200プログラムを構成、約12,000人の参加見込み

※企画公募は6/1（水）正午までサイエンスアゴラWEBサイトにて受付中。

◆全国展開・地域貢献の核となるネットワークを形成し、地方の総合大学や科学館との連携を強化

◆サイエンスアゴラを象徴する「キーノートセッション」を公募枠にて開催

ファミリー層や学生などの一般市民をはじめ、国内のトップ科学者、海外から招聘する有識者、企業、行政関係者など、多様なステークホルダーが一堂に会し、子供向け科学教室から企業のCSR・CSVまで、科学に関する様々な企画が集まります。また、会期中にプレスツアーを予定しています（詳細後日）。皆さまのご来場をお待ちしております。



# 事務局からのお知らせ

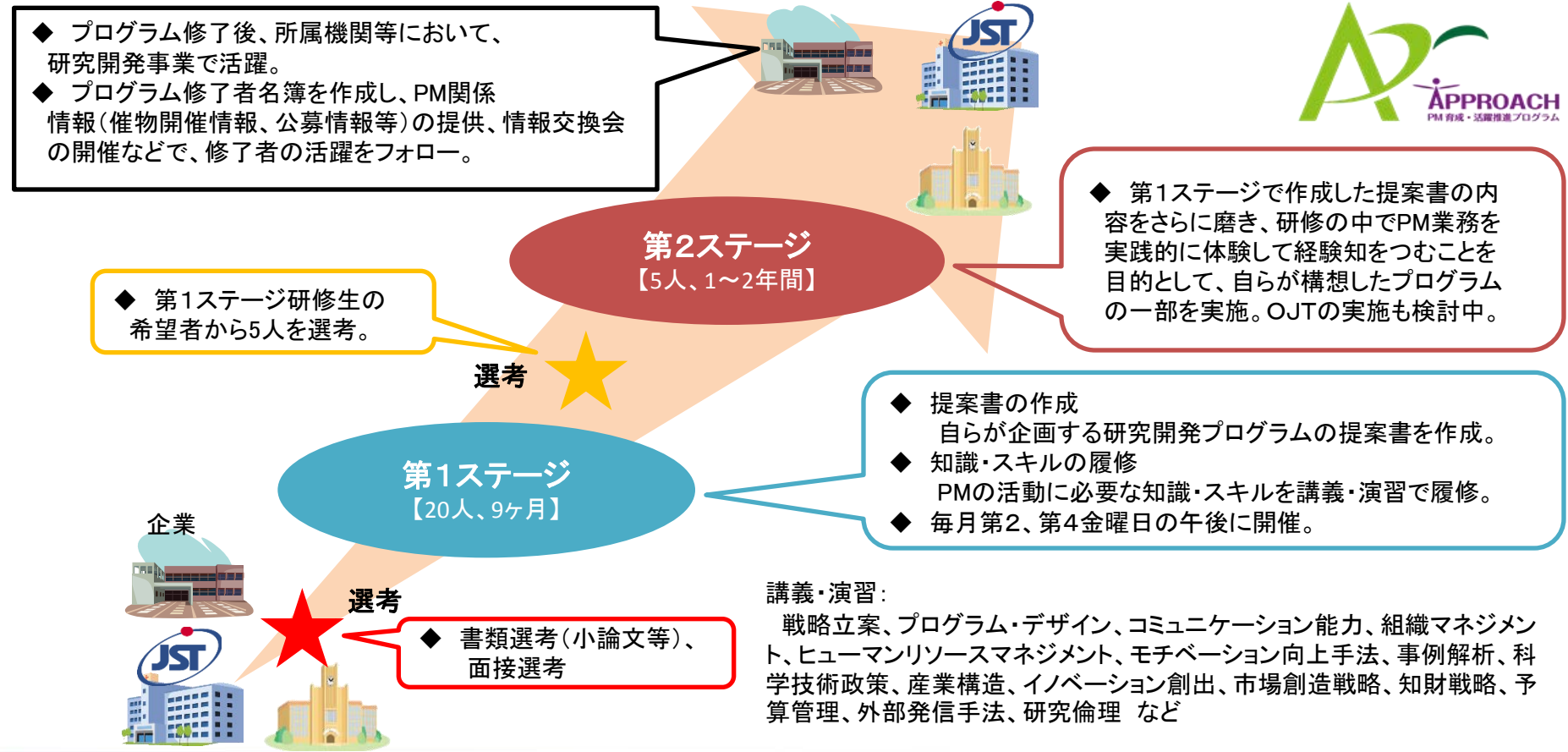


科学技術振興機構

# プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム

**事業概要:**平成27年度から実施。PMに必要な知識・スキルを身に付けるとともに、研究開発プログラムの企画・一部実行までを実践する。講義・演習で知識・スキルを身に付けるとともに、自らが企画する研究開発プログラムの提案書を作成する第1ステージと、作成した提案書を基に、その一部を実行し、その過程を通してPMに必要な能力を身に付ける第2ステージでプログラムを構成。

研修生はメンターの助言を受けながら第1ステージ、第2ステージに取り組む。



# プログラム・マネージャー(PM)育成・活躍推進プログラム 平成28年度研修生募集中

募集期間

平成28年5月11日～平成28年6月10日 14時

募集人数

20名程度

- 対象者：企業、大学、研修機関、FA等の職員
- ・企業等において、新製品や新事業の企画または研究開発活動に従事した経験を有する者。
  - ・大学・研究機関等において、URAもしくはURAと同等の業務に従事した経験を有する者、または研究開発活動に従事した経験を有する者。
  - ・国内のファンディング機関(FA)などにおいて、研究開発プログラムを担当した経験を有する者。

研修生  
決定時期

平成28年7月下旬

研修期間

平成28年10月～平成29年6月(9ヶ月)

昨年度の  
応募状況

募集人数：25名程度

応募者数：66名(企業16名、大学22名、研究機関12名、FA16名(JST職員12名))

受入数：27名(企業7名、大学6名、研究機関6名、FA8名(JST職員7名))

事務局問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構 イノベーション人材育成室公募担当

Tel :03-5214-8446

Email :innov-jinzai@jst.go.jp

ホームページ : <http://pm-jinzai.jst.go.jp>

## PMに求められる人材像

大きな波及効果をもたらす革新的技術や新たな価値創造を目指す研究開発プログラムを企画し、専門的知識や技術を持った人材とともに、第一線の研究者と連携しながらプログラムの目標達成を目指して実行・管理する者。

企画

実行  
管理

### PMに求められる能力

社会のニーズを  
把握する力

新たな価値を  
創造する力

プログラムを  
推進する力

プログラムを  
管理する力

# 戦略的創造研究推進事業における 平成28年度 新規研究領域

【第1期公募】CREST:4/13~6/8正午 さきがけ:4/13~6/1正午  
※熊本地震で被災された研究者は、公募締切日をそれぞれ2週間延期

(詳しくは、<http://senryaku.jst.go.jp/teian.html>を参照)

## 戦略目標



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

生命科学分野における光操作技術の  
開発とそれを用いた生命機能メカニ  
ズムの解明

材料研究をはじめとする最先端研究に  
おける計測技術と高度情報処理の融  
合

量子状態の高度制御による新たな物  
性・情報科学フロンティアの開拓

## CREST

光の特性を活用した生命機能の時空間制  
御技術の開発と応用

研究総括: 影山 龍一郎(京都大学 教授)

光操作技術の開発および応用による生命機  
能の高度理解と制御を目的とする。



生命機能メカニズム解明のための光操作  
技術

研究総括: 七田 芳則(京都大学 教授)

光による生命現象の「操作」および「観察」  
技術の開発とそれらを活用した「生命機能  
の解明」を目的とする。

## 【複合領域】



計測技術と高度情報処理の融合によるイン  
テリジェント計測・解析手法の開発と応用

研究総括(CREST担当):

雨宮 慶幸(東京大学 教授)

副研究総括(さきがけ担当):

北川 源四郎(情報・システム研究機構 機構長)

多様な計測・解析技術に最先端の情報科  
学・統計数理の研究を高度に融合させること  
によって、計測・解析技術の深化による新た  
な科学の開拓や社会的課題の解決を目指す  
。

## CREST

量子状態の高度な制御に基づく革新的量子  
技術基盤の創出

研究総括: 荒川 泰彦(東京大学 教授)

量子状態の高度制御の物理と技術を探求し量  
子科学のフロンティアを開拓するとともに、新た  
な量子情報処理や従来性能を凌駕する素子・  
システム機能の実現を目指す。



量子の状態制御と機能化

研究総括: 伊藤 公平(慶應義塾大学 教授)

量子現象の本質を紐解き、挑戦的な量子状態  
の操作・制御・測定をとおして新概念、新機軸、  
新技術の創成を目指す。

# メディア向けオープンラボ ご案内(SIP燃烧)

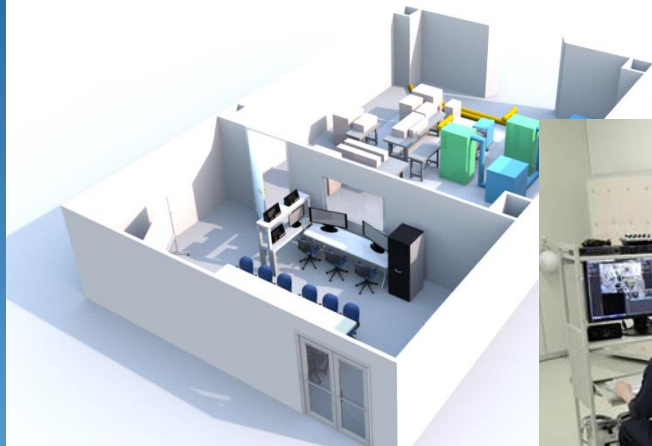
## SIP「革新的燃烧技術」オープンラボ 開催のご案内

開催日時: 2016年6月1日(水) 9:45~12:00 (受付開始:9:15~)

会場: 小野測器テクニカルセンター内慶應義塾大学SIPエンジンラボラトリー (神奈川県横浜市緑区白山1-16-1)

最寄り駅: JR横浜線「鴨居」駅あるいは「中山」駅

内容: SIP革新的燃烧技術では、日本初の産学のエンジン研究の拠点を立ち上げた。  
今回、最新の研究成果の発表と、エンジン試験機のデモ運転をメディアに初公開。



【本件に関するお問い合わせ先】  
SIP「革新的燃烧技術」PR事務局  
(株式会社ベクトル)担当: 小林・恩田  
TEL: 03-6825-3020  
FAX: 03-6674-2730  
MAIL: sip\_pr@vectorinc.co.jp  
当日のご連絡先: 080-6109-3453 (小林)



# JST イベント情報



科学技術振興機構

# JSTイベント情報①(5/30～)

## 理化学研究所 新技術説明会

開催日: 5月31日(火) 9:55～15:25  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## 製造技術分野 新技術説明会

開催日: 6月2日(木) 9:55～12:00  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## ライフサイエンス 新技術説明会

開催日: 6月2日(木) 12:55～15:30  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## 福岡大学 新技術説明会

開催日: 6月7日(火) 10:55～15:55  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## お茶の水女子大学 新技術説明会

開催日: 6月9日(木) 13:30～15:55  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## 国際開発者会議 BioHackathon(バイオハッカソン)2016 国内参加者募集

### ①公開シンポジウム

開催日: 2016年6月12日(日)  
会場: 山形県鶴岡市 / 慶応義塾大学 先端生命科学研究所

### ②国際開発者会議

開催日: 6月13(月)～18日(土)  
会場: 山形県鶴岡市 / 山形県あつみ温泉 たちばなや  
お問合せ: 科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター(NBDC)  
Tel: 03-5214-8491 Mail: infobiosciencedbc.jp

## 豊橋技術科学大学 新技術説明会

開催日: 6月14日(火) 13:25～15:55  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp

## 日仏国際共同研究テクノロジー・ショーケース

開催日: 6月15日(水)  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 国際戦略室  
Tel: 03-5214-8448 Fax: 03-5214-8412 Mail: globaleventjst.go.jp

## 東京農工大学 新技術説明会

開催日: 6月16日(木)  
会場: 東京都千代田区 / JST東京別館ホール  
お問合せ: 産学連携プロモーショングループ  
Tel: 03-5214-7519 Fax: 03-5214-8399 Mail: scettjst.go.jp